つぼみのようちゃん
くどうれいん

ようちゃんは、きめました。
「わたし、きょうからつぼみになる！」

ようちゃんはリビングのまんなかで、でーん、とあぐらをかきました。
それから、おふろばからもってきたきみどりのバスタオルをからだのまわりにぐるぐるとまきつけました。
でも、それだけじゃ、たりない
ようちゃんは、がようしにみどりのくれよんで《つぼみです》とおおきくかいてそれをすぐそばにおきました。
ようちゃんは、いまからつぼみです。

「あら、ようちゃん、おへやがさむいの？」
とおりかかったおばあちゃんはしんぱいして、ストーブのひをつよくしようとしました。
（ちがうってば、つぼみ！）
と、ようちゃんはいいたくなりましたが、つぼみはおしゃべりをしないんだった！とおもって、あわててめもくちもぴたっととじました。



「おや、すわったまんまなんてめずらしいおひるねだこと」
（だーかーら、つぼみったらつぼみなの）
ようちゃんはバスタオルからあしをだして《つぼみです》のがようしをつつきましたが、おばあちゃんはきがつきません。
「あったかくするんだよ」
おばあちゃんはストーブをようちゃんのほうにむけて、じぶんのへやへいってしまいました。ようちゃんは、おばあちゃんをおいかけたかったけれど、がまん。ようちゃんはいま、つぼみです。つぼみには、あったかいのがだいじ。

「ようちゃん、なんのあそび？　ええっ、つぼみ！」
おかあさんのこえです。おかあさんはつんつんとつぼみのようちゃんをつつきましたが、ようちゃんはつぼみなので、だんまり。
「おおきくてかわいいつぼみ。えいようをあげなくちゃね」
おかあさんがとおくへいってからこっそりめをあけると、チョコレートがふたつおかれていました。つぼみには、えいようも、だいじ。ようちゃんはぱくぱくとチョコレートをたべて、まためをとじました。

「どれどれ、ようちゃんがつぼみになったんだって？」
こんどはおとうさんのこえがしました。ようちゃんはめをとじながら（えっへん、つぼみだよ）とおもいました。
「つぼみなら、りっぱなはながさくように、たっぷりおみずをあげないと。よっこら、せ！」
ぐわん！とおしりがかるくなって、ようちゃんはびっくり。おとうさんはつぼみのようちゃんをだっこしました。ゆーらゆら、とはこばれて、あわててめをあけると、おふろばにむかっているみたい。おみずをかけられたら、つめたくって、たいへん！
「だめだめ、つぼみはおしまい！」
おとうさんがだっこをやめると、ようちゃんはぎゅっとしゃがみました。
「そろそろ、さくよー！」



ようちゃんがおおきなこえでいうと、おばあちゃんとおかあさんがきました。

ぐん！とうでをのばし。ぐんぐん！と、あしをのばし。ようちゃんは、ついにさきました。さいたさいた、とみんなおおよろこび。どうだ、とようちゃんはおもいました。

つぼみだったようちゃんは、おはなになりました。
おはなのようちゃんは、ぽかぽかのはるのおふろにはいりました。

（おしまい）

絵・ながしまひろみ